

これまでの県立高校におけるインクルーシブ教育の取組成果

成果

(1) 知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会の拡大につながった。

- 県立高校において、初めて知的障がいのある生徒を対象に、連携型中高一貫教育を活用した連携募集を実施し、平成 29 年 4 月、茅ヶ崎高校 8 名、厚木西高校 15 名、足柄高校 8 名、計 31 名の生徒が入学。
- 平成 30 年度は、パイロット校における連携募集の入学者は合計 41 名。

(2) 連携募集で入学した生徒が、充実した学校生活を送ることができている。

- ≪ 連携募集で入学した生徒 ≫ (生徒作文より)
- インクルーシブ教育に対して学校全体で考えているので、生活しやすいです。
 - 勉強は難しいけれど、それでも高校生活は楽しい！
 - これから 1 期生の自分たちががんばれば、インクルーシブ教育の未来を作っていくことができるかもしれない。
- ≪ 連携募集で入学した生徒の保護者 ≫ (保護者会より)
- 大人数になじめるか心配だったが、クラスにいい子が多くたくさん友だちができた。
 - これまで使おうとしなかった漢字を使おうとしている。親としては、それだけでも満足している。

(3) 生徒同士の相互理解が進み、一般募集で入学した生徒と自然に学校生活を送ることができている。

- ≪ 「共生社会」講演会後の感想 ≫ (茅ヶ崎高校・厚木西高校)
- 人はみんな違って障がい者も違うところが大きいけど、それも個性だと思いました。
 - 様々な生徒が互いに認め合って協力していくことはよいことだと思います。
 - いろいろな人がいて当然だから、互いを認めていかなければいけないと改めて感じた。
 - いろいろな個性を尊重することが、いじめを予防することにもつながると思いました。
 - 茅ヶ崎高校を筆頭に、茅ヶ崎市内、神奈川県内、全国へと「インクルーシブ教育」の幅が広がるといいと思う。

アンケート：「インクルーシブ」の考え方を知っていますか？

「みんなの教室」
モデル地域から
進学した生徒

知っている 80.2%

それ以外の地域から
進学した生徒

42.8%

【参考】

視察の状況（平成 29 年度）

※視察回数

	県内学校関係	他都道府県教育委員会及び学校関係	国等	合計
茅ヶ崎高校	2	6	3	11
厚木西高校	5	3	2	10
足柄高校	6	5	2	13
合計	13	14	7	34

これまでの取組

【入学前の支援】

- 連携募集により合格した生徒が、スムーズに高校生活を始めることができるよう、事前登校を実施。

【環境整備】

- 知的障がいのある生徒の教育的ニーズに応じて、少人数学習や個別指導等をするための「リソースルーム」の設置。
- 手すり等の設置。

【指導体制の工夫】

- 学級集団での学習及び生活を基本とした、複数の担任等による指導・支援を実施。
- ICT機器等も活用した、すべての生徒にとってわかりやすい授業を基本とし、チーム・ティーチングによる学習等、生徒の状況に応じた多様な形の学習活動を実施。
- リソースルームを活用した、個別指導、支援等の実施。
- ていねいな指導を行うため、生徒一人ひとりに個別の教育計画を作成。

【学習評価の工夫】

- 個別の目標の達成状況を重視する個人内評価の結果を踏まえながら、各教科の学習評価を実施。

【キャリア教育の工夫】

- 日常生活に必要なルールやマナー、周囲の人との円滑なコミュニケーションを行うための方法について学ぶ授業を実施。
- 将来の職業や高校卒業後の進路について考えるため、地域の企業などにおいて、職場見学等を実施。

【インクルーシブ教育について、生徒が主体的に考える教育活動（実施内容の一部）】

- 外部講師による講演会を実施。
- 校内のユニバーサルデザイン化についての生徒による研究発表を実施。

今後の取組

- 足柄高校における平成 31 年度入学者選抜で地域を拡大しての特別募集の実施。
- 平成 30 年秋に策定する「県立高校改革実施計画（Ⅱ期）」において、県内すべての地域を対象とできるようにインクルーシブ教育実践推進校を 10 数校追加指定。
- 小・中学校の取組の充実・拡大と、そのための環境整備。